

用語集 Rev. 6.20

—あ—

RCサーボ（あーるしーさーぼ）

ラジオコントロール機器を構成するものの一つ。位置決めコントローラが内蔵されたアクチュエータ。受信機からの信号を受け動作する。

→ ラジオコントロール機器

アドバイザー（あどばいざー）

防災、救助などに何らかの形で関わる人で、レスキューロボットコンテストへの助言を期待して実行委員会から依頼される。

アニュアルプライズ（あにゅあるぷらいず）

→ レスコンアニュアルプライズ

イエローフラグ（いえろーふらぐ）

反則行為に対する警告。ロボット1機ごとあるいはヘリテレに対して与えられる。1競技中に同じロボットあるいはヘリテレがイエローフラグを2回受けると、レッドフラグとなる。

→ レッドフラグ

異議（いぎ）

（1）競技中の審判の判定に対する質問行為の回答に対して、異議申し立てすることができる。ただし、異議に基づいた裁定によって審判の判定が覆された場合においても、競技結果に反映することはない。

（2）ロボット検査の結果に対して、異議を申し立てることはできない。

→ 裁定

一時帰還（いちじきかん）

レスキューロボットが自走してベースゲートを通過し、ロボットベースに戻ることに、また、自走できないロボットを他のロボットが助けロボットベースに戻すことを一時帰還と呼ぶ。

→ ロボットベースに戻る

一般審査員（いっぱんしんさいん）

審査員のうち、レスキューあるいはロボットに関する関係者および専門知識者を除き広く一般から募る審査員。審査員ポイントの採点を行う。

→ 審査員、専門審査員

移動ロボット（いどうろぼっと）

レスキューロボットの分類の一つ。ロボットがロボット自身を移動させることができる機構を有する場合、当該ロボットを移動ロボットと呼ぶ。

→ 基地ロボット、受動ロボット

引率者（いんそつしゃ）

学校のクラブ等の組織で参加する場合、チームの管理者として引率者を登録することができる。引率者はスタッフメンバーの人数には含まれないが、スタッフメンバーと同様、出入りを制限される場所に入ることができる。ただし、引率者はチームメンバーになることはできない。

学校の教職員以外の者を引率者として登録しようとする場合、事前に引率者の登録について実行委員会に申請しなければならない。

ウェイティングサークル（うえていんぐさーくる）

レスキュー活動中等にヘルパーが待機する場所。リスタートに関する作業を行うなど特段の目的がない場合、ヘルパーはウェイティングサークル内にいなければならない。

エキシビション（えきしびしょん）

本選期間中に正規の競技ではないが、競技に準じた形で行われるレスキュー活動等。評価の対象にはならない。

エリア（えりあ）

ブロックは複数のエリアで構成される。エリアは「私有地」として想定しているので、レスキューダミーを救出する目的でレスキューダミーが配置されているエリアに立ち入る以外は、みだりに進入してはならない。エリアには、固定されていないガレキが配置される。レスキューダミーは、エリアに配置される。

応募（おうぼ）

参加チーム募集に応じて参加希望チームが応募する。レスキューロボットコンテスト参加申込書の提出をもって応募とする。参加希望チームは応募締め切りまでに応募しなければならない。

→ 規定 3. 3. 応募

応募書類（おうぼしょるい）

応募チームが提出したレスキューロボットコンテスト参加申込書。実行委員会は応募書類にもとづいて書類審査を行う。

応募チーム（おうぼちーむ）

参加チーム募集に対して応募し、応募が完了したチーム。応募チームは書類審査を受け、書類審査で採択されると採択チームと呼ばれる。

→ チーム

応募メンバー（おうぼめんばー）

参加チーム募集の応募時に競技会を想定して登録されるメンバー。

→ メンバー、スタッフメンバー、チームメンバー

オペレータ（おぺれーた）

チームメンバーの担当の一つ。レスキューロボットを操縦する担当または担当者を言う。

—か—

開催告知（かいさいこくち）

各回のレスキューロボットコンテストにおける最初の活動。実行委員会は、参加チーム募集開始の1ヶ月以上前に開催告知を行わなければならない。

開催趣旨（かいさいしゅし）

フィロソフィーの概略を平易な言葉で簡単にまとめ、また、各回の競技の概略を解説したもの。各回ごとに改訂され、参加チームの募集開始時に募集要項にて告知される。

→ フィロソフィー

確定ポイント（かくていぽいんと）

合計ポイントに、審判団による減点を加味した後のポイントを確定ポイントと呼ぶ。

→ 合計ポイント

隔壁（かくへき）

競技会場に設けられ、コントロールルームと実験フィールドとを隔てる壁。ベースゲートが設けられている。

壁（かべ）

実験フィールドの外側に設けられる。高さ 100mm。

ガレキ（がれき）

棒状ガレキ、板状ガレキ等のガレキが実験フィールドに配置される。配置される場所によって路上ガレキ、ブロック内ガレキに分けられる。単体のガレキを意味する場合と、集合体としてのガレキを意味する場合がある。

機（き）

レスキューロボットを数える構成単位。1機とは1ページのロボットアイデア用紙の内容を基本とする。1機のロボットが分離する場合は、分離する最小単位を1台と呼ぶ。

→ 台

基地ロボット（きちろぼっと）

レスキューロボットの分類の一つ。ロボットがロボット自身を移動させることができる機構を装備しないが、何らかのエネルギー源を装備する場合、当該ロボットを基地ロボットと呼ぶ。単独のリスタートは認められない。

→ 移動ロボット、受動ロボット

規定適合性（きていてきごうせい）

書類審査において採択を受けたチームのチーム名称、提案したロボットのアイデア、応募メンバー等が規定に抵触している、あるいは抵触することが予想される場合、規定適合性通知書にて、その旨通知を受ける。

キャプテン（きゃぷてん）

一回のレスキューロボットコンテストを通しての担当。必ず設けなければならない担当。キャプテンは応募メンバーにおいて登録したキャプテンから原則変更禁止である。

主な役割は、チームの指揮を執り、チームを統括すること。担当者を意味する場合もある。

キャプテン会議（きゃぷてんかいぎ）

予選および本選期間中、審判団が必要に応じて開催する。全チームのキャプテンは出席しなければならない。競技進行の手順等の確認、また、各チームが重大な違反を起こさないよう、注意事項の伝達を行う。キャプテン会議にてミッションごとのチームメンバー申請用紙が配布される。

救出（きゅうしゅつ）

レスキュー活動において、レスキューダミーをガレキの中から救い出すこと。

救出完了（きゅうしゅつかんりょう）

レスキュー活動において、レスキューダミーが配置されていたエリアから道路上へ完全に出た時点を救出完了とする。レスキューダミーが空中にいる場合は床面への投射影で考える。

救助（きゅうじょ）

→ レスキュー

競技（きょうぎ）

競技会場へ入ってから出てくるまでを一回の競技と見なす。競技には、プレゼンテーション、作戦会議、レスキュー活動、レスキュー活動報告の他、出動準備等も含まれる。

競技会（きょうぎかい）

競技を行うレスキューロボットコンテストの中心となる催事。予選と本選からなる。

競技会参加チーム（きょうぎかいさんかちーむ）

→ 参加チーム

競技会場（きょうぎかいじょう）

競技を行う会場。競技会場は、実験フィールド、コントロールルーム、隔壁、およびヘリテレステージで構成される。競技会場には、コントロールルームおよびヘリテレステージが二つあり、2チームが同一の実験フィールドで競技を行う。

競技用RC機器（きょうぎようあーるしーきき）

競技で用いるラジオコントロール機器。

競技用クリスタル（きょうぎようくりすたる）

競技で用いるクリスタル。競技用クリスタルは、競技の直前に実行委員会から貸与されるものの3組に限り使用を認める。

競技用無線カメラ（きょうぎようむせんかめら）

競技で用いる無線カメラ。競技用無線カメラは、競技の直前に実行委員会から貸与されるものの3台に限り使用を認める。

緊急停止スイッチ（きんきゅうていしすいっち）

レスキューロボットのすべてのエネルギー源を遮断するスイッチ。ロボット上部等のわかりやすい位置に操作が容易にできるように取り付けなければならない。特段の理由がない限り緊急停止スイッチは実行委員会が指定したものとする。

クリスタル（くりすたる）

ラジオコントロール機器が使用するバンドを決める発振子。クリスタルを交換することにより、ラジオコントロール機器が使用するバンドを変更する。クリスタルにはバンドの番号が表記されている。プロポ用と受信機用の一組を対で使用する。競技においては、送受信器用のクリスタルを3組貸与する。

現場（げんじょう）

レスキュー活動において救助を必要とするレスキューダミーが埋まっている場所。

現場到着（げんじょうとうちゃく）

レスキュー活動において、レスキューロボットが現場へ至ること。チームのいずれかのロボットが、レスキューダミーが配置されているエリアにあるブロック内ガレキまたはレスキューダミーに触れる時点とする。

工具等（こうぐとう）

レスキューロボットの調整、部品交換等を行うための道具。一般的な工具であっても、レスキューロボットに取り付けて出動する場合は付属品となる。

合計ポイント（ごうけいぱいと）

一回の競技におけるフィジカルポイントおよびミッションポイントの合計を合計ポイントと呼ぶ。

コンテスト（こんてすと）

開催告知から貸与機器の返却までの、レスキューロボットコンテスト実行委員会が主催するすべての催しの総称として用いる。

コントロールルーム（こんとろーるるーむ）

競技会場に設けられ、チームメンバーが実験フィールドの情報収集やレスキューロボットの操縦などを行う場所。隔壁で実験フィールドと分けられており、震災被害を受けていない地域に設置されていると想定されている。ロボットベース、各種カメラのモニターテレビ等が設置されている。競技中、キャプテンおよびオペレータはコントロールルーム内にいなければならない。

— さ —

再検査（さいけんさ）

ロボット検査において合格に達していないレスキューロボットがロボット検査を再度受けること。レスキューロボット1機につき、一度だけ認められる。一度目の検査において検査員と協議の上、再検査で合格の見込みがあるものについてのみ再検査を申請することができる。

採択（さいたく）

応募チームの応募アイデアが書類審査に通過すること。実行委員会は書類審査の終了から2週間以内に、チームへ審査結果の通知を行わなければならない。

採択チーム（さいたくちーむ）

応募チームに対して書類審査を行い、書類審査にて採択されたチーム。

→ チーム

裁定（さいてい）

審判の判定に関する異議申し立てに対して実行委員長が裁定を下す。裁定は最終判断であり、裁定に対して異議を申し立てることはできない。ただし、裁定によって審判の判定が覆された場合においても、競技結果に反映することはない。

→ 異議

坂道（さかみち）

平地と高台とを結ぶ傾斜 20%程度の道。

作戦会議（さくせんかいぎ）

本選でレスキュー活動を行う前に行われる競技内容の一つ。ヘリテレが撮影するカメラ映像やヘリテレの目視などによる観察を基に、ガレキ内に取り残されたレスキューダミーの救助作戦を立てる。作戦会議が始まるまでに、レスキューダミーが配置されているエリアを含む探索ブロックが知らされる。

参加希望チーム（さんかきぼうちーむ）

競技会への参加を希望するチーム。参加希望チームは応募の完了をもって応募チームと呼ばれる。

→ チーム

参加チーム（さんかちーむ）

予選あるいは本選へ参加するチーム。予選あるいは本選どちらかへの参加を特に示す場合は予選参加チーム、本選参加チームと呼ぶ。予選後の指導に従わないチームは、本選参加チームになれない場合がある。

→ チーム、指導

参加チーム募集（さんかちーむぼしゅう）

実行委員会は、開催告知から後に、競技会への参加を希望するチームを募集する。参加チームの募集開始において、コンテストの開催趣旨が公表される。

実験フィールド（じっけんふいーるど）

競技を行うために競技会場に設置され、レスキューロボットがレスキューダミーを救助する活動を行う場所。地震被害の被災地を模擬している。実験フィールドは道路、ブロック等で構成される。

→ 競技会場、コントロールルーム

実行委員（じっこういいん）

レスキューロボットコンテスト実行委員会の構成員。

実行委員会（じっこういいんかい）

レスキューロボットコンテスト実行委員会の略称。

実行委員長（じっこういいんちょう）

レスキューロボットコンテスト開催に関する最高責任者。レスキューロボットコンテスト実行委員会の長。審判の判定に関する異議を受けつけた場合、裁定をする。またロボット検査の保留事項については全検査員および実行委員長が協議を行う。

質問行為（しつもんこうい）

（１）審判の判定に対して、チームのキャプテンはミッション終了後主審に対して質問することができる。

（２）審査員の自チームの評価についてその評価結果の理由に限り質問することができる。ただし、ミッション終了後キャプテンが主審に申し込む。

（３）規定に関する質問は電子メールでのみ受け付ける。回答はレスキューロボットコンテストウェブページ上に掲載する。

問い合わせ電子メールアドレス Q-rule@rescue-robot-contest.org

指導（しどう）

予選において、実行委員会が各チームの本選へ向けての準備状況の審査を行う。その結果、準備不十分と判断した場合、実行委員会はチームを指導することができる。チームが指導に従わない場合、実行委員会はチームの本選への参加を取り消すことができる。

主審（しゅしん）

審判団の構成員。競技中の全権を持ち、副審を指揮・統括する。

地元枠（じもとわく）

書類審査時に、書類審査とは異なる選考過程により、応募チームの中から主催団体が推薦し採択チームとして選ばれる枠。地元枠のチームは予選なしで本選に出場することができるが、予選競技は行わなければならない。

受信機（じゅしんき）

（１）ラジオコントロール機器を構成するものの一つ。プロポからの操縦指令を受信し、RCサーボへ信号を出力する。バンドを変更するためには内蔵しているクリスタルを入れ替える。

(2) 無線カメラからの信号を受信し、モニターテレビへ出力する。チャンネルを変更するためには、受信機本体を変更する。

出動（しゅつどう）

レスキューロボットがロボットベースからベースゲートを通り、救出現場へ向かうこと。

受動ロボット（じゅどうろぼと）

レスキューロボットの分類の一つ。ロボットがロボット自身を移動させることができる機構を装備せず、かつ、いずれのエネルギー源も装備しない場合、当該ロボットを受動ロボットと呼ぶ。単独のリスタートは認められない。

→ 移動ロボット、基地ロボット

条件付き合格（じょうけんつきごうかく）

ロボット検査において、規定に不適合である機能を競技中使用しないことを条件とした合格。

書類審査（しゅるいしんさ）

応募書類を基に実行委員会が書類審査にてチームを採択する。書類審査において採択されたチームは、予選そして本選へ進むことができる。実行委員会は応募締め切りから1ヶ月以内に、書類審査を終了しなければならない。

→ 規定 3. 4. 書類審査

審査員（しんさいん）

審査員はレスキューロボットコンテストのフィロソフィーおよび開催趣旨に則り、審査員ポイントの採点を行う。同数程度の一般審査員および専門審査員で構成される。

→ 一般審査員、専門審査員、フィロソフィー、開催趣旨

審査員ポイント（しんさいんぽいんと）

競技を評価する指標の一つ。審査員がファイナルミッションについて評価する。一つのチームに対する一人あたりの審査員ポイントの満点は、一般審査委員より専門審査委員に多く配点する。主にレスキューロボットコンテストの趣旨に合致している度合いを反映するためのポイント。

審判（しんぱん）

競技が規定に則り行われているかを判定する。主審および副審を設ける。

審判団（しんぱんだん）

審判全員を指して審判団と呼ぶ。主審および副審で構成される。

審判団による減点（しんばんだんによるげんてん）

競技において、反則には該当しないが、悪質な行為が認められた場合、審判団は50点を限度として合計ポイントを減点することができる。

→ 合計ポイント

スタッフメンバー（すたっふめんばー）

競技会において、舞台裏手、チーム控え室および競技会場等出入りを制限される場所に入ることができる。予選あるいは本選の開催日1週間前までに登録しなければならない。キャプテン以外のメンバーに関しては、予選と本選で異なるメンバーとしてもよい。上限を12名とする。チームメンバーは引率者を除くスタッフメンバーから選抜しなければならない。

→ 応募メンバー、チームメンバー

スピーカー（すピーカー）

チームメンバーの担当の一つ。必ず設けなければならない担当。レスキューロボットおよび戦術のプレゼンテーションを行う。

センサモード（せんさもーど）

ダメージインデックスを算出するために通常用いられる方法。レスキューダミーに内蔵されているセンサの値を基にする。

→ フラグモード

戦術（せんじゅつ）

想定した災害現場から救助を行うためにあらかじめ検討されている方法。

センターライン（せんたーらいん）

道路上に描かれる幅20mmのライン。被災地を想定しているため、一部が欠落していることもある。

全体ミーティング（ぜんたいみーていんぐ）

競技会において運営を円滑に進めるために行われる会議。実行委員会、運営スタッフ、全参加チームのスタッフメンバーの顔合わせの場ともなる。全参加チームのスタッフメンバーが出席しなければならない。予選あるいは本選運営上の注意、連絡事項等が実行委員会から伝達される。

専門審査員（せんもんしんさいん）

レスキューあるいはロボットに関連する専門知識を有する者から実行委員会が選任する審査員。審査員ポイントの採点を行うとともに、各賞の受賞者等の選定も行う。

→ 審査員、一般審査員

総合ポイント（そうごうぽいと）

ファーストミッションおよびファイナルミッションの確定ポイント、さらにファイナルミッションの審査員ポイントを加算したポイント。

—た—

台（だい）

レスキューロボットを数える構成単位。1機のロボットが分離する場合は、分離する最小単位を1台と呼ぶ。

→ 機（き）

タイムインデックス（たいむいんでつくす）

フィジカルポイントを算出するための指標の一つ。レスキュー活動の迅速さを反映する。

→ フィジカルポイント

貸与物品（たいよぶっぴん）

実行委員会から採択チームに貸与される物品。貸与用RC機器、貸与用無線カメラなどが含まれる。

貸与用RC機器（たいようあーるしーきき）

貸与機器として実行委員会から採択チームに貸与されるラジオコントロール機器。

貸与用クリスタル（たいようくりすたる）

貸与機器として実行委員会から採択チームに貸与されるクリスタル。貸与用RC機器に含まれる。予選あるいは本選期間中は、電波の混信による事故を防ぐため、貸与用無線カメラおよび貸与用クリスタルが実行委員会の電波管理者に管理される。

貸与用無線カメラ（たいようむせんかめら）

貸与機器として実行委員会から採択チームに貸与する無線カメラ。予選あるいは本選期間中は、電波の混信による事故を防ぐため、貸与用無線カメラおよび貸与用クリスタルが実行委員会の電波管理者に管理される。

高台（たかだい）

実験フィールドの高い地域。平地と高台との高低差は450mm程度である。平地と高台は坂道で結ばれる。

ダミヤン（だみやん）

レスキューロボットコンテストの競技で使用するレスキューダミーの呼称。震災でガレキに

埋もれた被災者を模した小型の人形。詳細は規定別添5参照のこと。

→ レスキューダミー

ダメージインデックス（だめーじいんでっくす）

フィジカルポイントを算出するための指標の一つ。レスキューロボットがレスキューダミーをいかに優しく救助できるかを反映する。

→ フィジカルポイント

探索ブロック（たんさくぶろっく）

レスキューダミーが配置されているエリアを含むブロック。

→ ブロック

担当（たんとう）

チームメンバーが受け持つ仕事内容に対応した係り名。担当にはキャプテン、スピーカー、オペレータ、ヘリテレ、ヘルパー、電波管理がある。チームメンバーは、電波管理を除く担当を少なくとも一つ受け持たなければならない。

担当カラー（たんとうからー）

競技会においてはキャプテン、スピーカー、ヘリテレ、ヘルパーを担当カラーによって識別する。各担当者は該当の担当カラーのついた実行委員会からの配布物を着用しなければ各担当とは認められず、担当に認められた作業を行うことができない。

チーム（ちーむ）

チームおよびそのメンバーはレスキューロボットコンテストのフィロソフィーおよび開催趣旨に賛同するものであれば特にその資格を問わない。チームはレスキューロボットコンテストの進行に合わせ、参加希望チーム、応募チーム、採択チーム、参加チームと呼ばれ、その総称としてチームと呼ぶ場合がある。

→ 参加希望チーム、応募チーム、採択チーム、参加チーム

チーム識別票（ちーむしきべつひょう）

競技において、同時に競技を行う2チームのロボットを識別するために取り付けるもの。

チーム紹介用紙（ちーむしょうかいようし）

レスキューロボットコンテスト参加申込書の一部。チーム名の由来、レスキュー活動上の特徴等について記入する。

→ メンバー一覧用紙、ロボットアイデア用紙

チーム責任者（ちーむせきにんしゃ）

応募チームの構成メンバーの状況に応じてチーム責任者を登録しなければならない場合がある。チーム責任者は物品貸与に関することを含めて、レスキューロボットコンテストに関するメンバーの活動において責任を持たなければならない。チーム責任者は成年者とする。チーム責任者は応募メンバーの人数に算入されない。

→ 規定 2. 2. 3. 応募メンバー

チーム控え室（ちーむひかえしつ）

予選あるいは本選期間中のスタッフメンバーの待機場所およびレスキューロボットの保管場所としてチーム控え室を設置する。チーム控え室では、ロボットの調整を行うことができるが、ラジオコントロール機器や無線カメラを使用した調整を行うことはできない。

チーム控え室は一般観客に対して公開される場合がある。

チームメンバー（ちーむめんばー）

競技会において、競技会場に入りで競技を行うことのできるチームの構成員。引率者を除くスタッフメンバーから選抜される。本選ではミッションごとにチームメンバーを登録しなければならない。上限を8名とする。

→ 応募メンバー、スタッフメンバー

チームメンバー登録用紙（ちーむめんばーとうろくようし）

競技会において、チームメンバーを登録するための用紙。

チャンネル（ちゃんねる）

（1）ラジオコントロール機器の操縦自由度のことをいう。例えば、「1チャンネルでレスキューロボットのアームの角度を制御する。」「このラジオコントロール機器は6チャンネルの制御を行える。」など。

（2）無線カメラについては使用する周波数に対応する番号のことをいう。例えば、「10チャンネルと13チャンネルの無線カメラは同時に使用できる。」など。

出入りを制限される場所（でいりをせいげんされるばしょ）

競技会において、舞台裏手、チーム控え室および競技会場等、実行委員会が定める出入りを制限される場所には、実行委員会委員、運営スタッフ、事前に登録された全参加チームのスタッフメンバーおよび引率者、および実行委員会が認めた者以外入ることができない。

テストラン（てすとらん）

予選第1日目および本選第1日目に、競技会で使用する競技会場とほぼ同一な状況でレスキューロボットを操縦し、レスキュー活動の練習を行うことができる。各チームには、時間指定の上、テストランを行う機会を与える。

電波管理（でんぱかんり）

チームメンバーの担当の一つ。必ず設けなければならない。キャプテン以外の担当を兼務しなければならない。競技中の電波管理を円滑に行うために、自チームの使用する電波機器の管理を行う。

電波管理会議（でんぱかんりかいぎ）

競技会において開催される会議。電波管理に関する注意事項を伝達する。各チームの電波管理担当者は出席しなければならない。

電波管理ブース（でんぱかんりぶース）

競技会では各チームが同一の会場でテストラン、競技等を行う。このときの電波の混信による事故を防ぐため、貸与機器のうち、貸与用無線カメラおよび貸与用クリスタルが実行委員会の電波管理者に管理されることになる。予選あるいは本選期間中を通して競技会場に電波管理ブースが設けられ、一元的に管理される。また、競技等を行う際には、各チームの電波管理担当者が電波管理ブースに行き、競技で使用する競技用無線カメラおよび競技用クリスタルを受け取る。

電波機器（でんぱきき）

無線カメラ、クリスタル、ラジオコントロール機器および電波を発生する機器一般を指す。

道路（どうろ）

実験フィールド内のブロックを囲むように設けられている通路。ブロックを構成するエリア内は「私有地」と想定されているが、道路上は「公有地」として想定している。

—な—

特になし。

—は—

搬送（はんそう）

レスキュー活動において、救出されたレスキューダミーをロボットベースへ運ぶこと。

搬送完了（はんそうかんりょう）

レスキュー活動において、搬送されてきたレスキューダミーがベースゲートを完全に通過した時点を搬送完了とする。

バンド（ばんど）

ラジオコントロール機器が使用する周波数に対応する番号。レスキューロボットコンテスト

で使用する周波数とバンドの対応については、以下を参照のこと。

40.61MHz	61 バンド、	40.63MHz	63 バンド、
40.65MHz	65 バンド、	40.67MHz	67 バンド、
40.69MHz	69 バンド、	40.71MHz	71 バンド、
40.73MHz	73 バンド、	40.75MHz	75 バンド、
40.77MHz	77 バンド、	40.79MHz	79 バンド、
40.81MHz	81 バンド、	40.83MHz	83 バンド、
40.85MHz	85 バンド		

バンププレート（ばんぷぷれーと）

被災地の道路状況を再現するために、道路内の凹凸が設けられている部分。バンププレートにはセンターラインは引かれていない。形状等については規定別添2を参照。

表彰（ひょうしょう）

優秀な成績を収めたチーム、レスキューロボット、メンバーを表彰する。表彰される賞はレスコンアニュアルプライズとレスコンメモリアルプライズに大別される。

ファーストミッション（ふあーすとみっしょん）

本選で最初に行われるミッション。すべての本選参加チームが参加することができる。フィジカルポイントおよびミッションポイント等を基にした確定ポイントで評価する。

ファイナルミッション（ふあいなるみっしょん）

本選で最後に行われるミッション。ファーストミッションの結果により参加するチームが決定される。フィジカルポイント、ミッションポイント、および審査員ポイント等を基にして評価する。

フィジカルポイント（ふいじかるぽいんと）

レスキュー活動を評価する指標の一つ。ダメージインデックスとタイムインデックスより算出され、レスキューダミーのダメージを反映する。

フィロソフィー（ふいろそふいー）

レスキューロボットコンテストの最も基本となる考え方、趣旨。コンテストのすべてはフィロソフィーに則り計画、開催される。

副実行委員長（ふくじっこういいんちょう）

実行委員長の補佐。

副審（ふくしん）

審判団の構成員。主審の指揮・統括下で、主審を補佐しながら競技の進行に努める。コントロールルーム担当副審とダミヤン担当副審を設ける。

不合格（ふごうかく）

ロボット検査において、条件付合格あるいは再検査のいずれの対応においても明らかに合格が難しいと認められるレスキューロボットを不合格とする。不合格となったロボットは競技会場へ持ち込むことはできない。レスキューロボットを不合格とする場合、検査員の十分な説明のもと、参加チームの同意を必要とする。

不採択（ふさいたく）

書類審査において応募チームの応募アイデアが選考を通過できないこと。実行委員会は書類審査の終了から2週間以内に、チームへ通知を行わなければならない。

フラグモード（ふらぐもーど）

ダメージインデックス算出法の一つ。通常はセンサモードで算出されるが、レスキューダミーのシステムの不調時の緊急避難的な算出法。ダミヤン担当副審によるブルーフラグの提示回数を基準とする。

→ センサモード

ブラックフラグ（ぶらっくふらぐ）

反則行為に対する失格。ブラックフラグが宣告されたチームは宣告された時点で失格となり、競技を継続することはできない。また、競技は没収となり、評価を受けることができない。

ブルーフラグ（ぶるーふらぐ）

フラグモードによるダメージインデックスの基となる。ダミヤン担当副審が提示し、提示回数によりフラグモードのダメージインデックスが算出される。

プレゼンテーション（ぶれぜんてーしょん）

本選で行われる競技内容の一つ。スピーカーがチームのレスキューロボットの特徴、戦術を紹介する。

ブロック（ぶろっく）

実験フィールド内の道路で囲まれた領域。複数のエリアから構成される。レスキューダミーが配置されているエリアを含むブロックを探索ブロックと呼ぶ。

ブロック内ガレキ（ぶろっくないがれき）

ブロック内に配置されるガレキ。単体のガレキを指す場合と集合体のガレキを指す場合があ

る。

→ 路上ガレキ

プロポ（ぶろぽ）

ラジオコントロール機器を構成するものの一つ。操縦装置と送信機が一体となったもの。バンドを変更するためには内蔵しているクリスタルを入れ替える。

平地（へいち）

実験フィールドの低い地域。平地と高台との高低差は 450mm 程度である。平地と高台は坂道で結ばれる。

ベースゲート（ベースげーと）

ベースゲートは隔壁に設けられ、コントロールルームと実験フィールドを結んでいる。道路上面からの高さが 600mm であり、幅は 700mm である。すべてのレスキューロボットはベースゲートを通り出動する。

ベストチームワーク賞（べすとちーむわーくしょう）

レスコンアニュアルプライズの一つ。担当する専門審査員または実行委員長が選定する。チームに与えられる。

ベストテレオペレーション賞（べすとてれおぺれーしょんしょう）

レスコンアニュアルプライズの一つ。担当する専門審査員または実行委員長が選定する。オペレータに与えられる。

ベストプレゼンテーション賞（べすとぷれぜんてーしょんしょう）

レスコンアニュアルプライズの一つ。担当する専門審査員または実行委員長が選定する。スピーカーに与えられる。

ベストポイント賞（べすとぽいんとしょう）

レスコンアニュアルプライズの一つ。最も高い総合ポイントを獲得したチームに与えられる。

ベストロボット賞（べすとろぼっとしょう）

レスコンアニュアルプライズの一つ。担当する専門審査員または実行委員長が選定する。ロボットに与えられる。

ヘリテレ（へりてれ）

チームメンバーの担当の一つ。ヘリコプターで上空から災害現場を撮影するテレビカメラを模擬し、作戦会議およびレスキュー活動においてヘリテレステージより実験フィールドの撮影、

観察を行う。担当者を意味する場合もある。

ヘリテレカメラ（へりてれかめら）

ヘリテレが実験フィールドの情報を収集するためのカメラ。ヘリテレカメラはヘリテステージに用意されているカメラを使用しなければならない。ヘリテレはヘリテステージ上においてのみヘリテレカメラを操作することができる。

ヘリテステージ（へりてれすてーじ）

ヘリテレが高所から実験フィールドの情報収集を行うために使用する台。ヘリテレ以外のチームメンバーがヘリテステージに登ってはならない。

ヘルパー（へるぱー）

チームメンバーの担当の一つ。レスキュー活動中にウエイティングサークルに待機し、リスタートの際にレスキューロボットを取り扱う。担当者を意味する場合もある。レスキュー活動中、ヘルパーは他の担当者とコミュニケーションをとってはならない。リスタートに関する作業を行うなど特段の目的がない場合、基本的にヘルパーはウエイティングサークル内にいなければならない。

報告会（ほうこくかい）

予選および本選の最後に行われる。実行委員会と各参加チームの討議の場である。競技会の各活動あるいは予選および本選後の対応に関する意見交換を行う。

歩道橋（ほどうきょう）

道路上に設けられている。歩道橋の桁下は600mm以上であり、橋脚は道路上に存在しない。

本選（ほんせん）

本選参加チームが競技を行い、レスキュー工学大賞を選定する。3日間の会期で開催され、第1日目にロボット検査等が行われ、第2日目、第3日目に競技が行われる。第1日目は関係者以外非公開、第2日目、第3日目は一般公開とする。

本選参加チーム（ほんせんさんかちーむ）

→ 参加チーム

— ま —

ミッション（みっしょん）

本選ではファーストミッション、およびファイナルミッションを行う。本選参加チームは各ミッションを通して合計1～2回の競技を行う。

ミッションポイント（みっしょんぽいんと）

レスキュー活動を評価する指標の一つ。救助作業の達成度を反映する。

→ 現場到着、救出完了、搬送完了

メモリアルプライズ（めもりあるぷらいず）

→ レスコンメモリアルプライズ

メンバー（めんばー）

チームの構成員のうち登録された者。メンバーはフィロソフィーおよび開催趣旨に賛同するものであれば特にその資格を問わない。チームのメンバーはレスキューロボットコンテストの進行に合わせ、応募メンバー、スタッフメンバー、チームメンバー、として3種類の登録をする必要がある。応募メンバー、スタッフメンバー、チームメンバー、の総称としてメンバーと呼ぶ場合がある。

→ チーム、応募メンバー、スタッフメンバー、チームメンバー

メンバー一覧用紙（めんばーいちらんようし）

レスキューロボットコンテスト参加申込書の一部。チーム名、応募メンバー等について記入する。

→ チーム紹介用紙、ロボットアイデア用紙

無線カメラ（むせんかめら）

レスキューロボットに搭載し、ロボットの操縦に必要となる映像を撮影するためのカメラ。映像は電波で送信される。貸与機器の一つ。

モニターテレビ（もにたーてれび）

コントロールルーム内に設置された、映像を表示する装置。モニターと省略することがある。無線カメラのモニター、ヘリテレカメラのモニター、評価ポイントのモニターがある。

—や—

床面（ゆかめん）

競技会場を鉛直上方からみたときに見える面。たとえば実験フィールドでは、道路や各種ブロックおよびガレキの上面となる。いわゆる建築物の床ではない。

予選（よせん）

本選に先行し、採択チームの中から本選へ参加するチームを選抜するための予選を行う。予選は2日間の開催とし、第1日目はテストラン等を行い、第2日目は予選競技を行う。第1日目は関係者以外非公開、第2日目は一般公開とする。

予選競技（よせんきょうぎ）

採択チームの中から本選へ参加するチームを選抜するために予選において行われる競技。

予選参加チーム（よせんさんかちーむ）

→ 参加チーム

ーらー

ラジオコントロール機器（らじおこんとろーるきき）

レスキューロボットを電波で操縦するための装置。プロポ、受信機、RCサーボ等で構成される。プロポおよび受信機に取り付ける一組のクリスタルを取り替えることにより、バンドの変更を行う。貸与機器の一つ。

リスタート（りすたーと）

レスキューロボットが不調となり一時帰還できない場合などにおいて、主審の許可を受け、ロボットをロボットベースへ持ち帰り、修理などを実施した後、再度出動することができる。この一連の作業をリスタートと呼ぶ。リスタートは実際のレスキュー活動ではありえず、あくまでもコンテスト上の救済措置である。

→ 規定 2. 7. 5. レスキューロボットのリスタート

リスタート要請スイッチ（りすたーとようせいすいっち）

レスキューロボットのリスタートを要請する際にキャプテンが操作するスイッチ。スイッチを押すと回転灯が点灯する。キャプテン以外は操作してはならない。

レスキュー（れすきゅー）

レスキューダミーを救うために行う一連の活動。出動、現場到着、救出、搬送を総称して言う。

レスキュー活動（れすきゅーかつどう）

本選で行われる中心的な競技。作戦会議で立案した作戦に基づき、レスキューダミーの救助を行う。

レスキュー活動の完了（れすきゅーかつどうのかんりょう）

チームに割り当てられた探索ブロック内のすべてのレスキューダミーを搬送完了した時点を、レスキュー活動の完了とする。

レスキュー活動報告（れすきゅーかつどうほうこく）

本選でレスキュー活動を行った後に行われる競技内容の一つ。キャプテンがロボットの行った活動をインタビュー形式で総括する。他のチームメンバーもレスキュー活動報告に参加して

もよい。

レスキュー工学大賞（れすきゅーこうがくたいしょう）

レスコンアニュアルプライズの一つ。実行委員長が選定する。コンテストすべてを通し総合的に判断される。レスキューロボットコンテストで最も意義深い賞。チームに与えられる。

レスキューダミー（れすきゅーだみー）

災害等で罹災した、あるいは負傷した人を模した人形。人の感覚を模擬した各種センサを内蔵し、センサ状況を遠隔モニターすることができる。レスキューロボットコンテストで使用するレスキューダミーを特に「ダミヤン」と呼ぶ。

→ ダミヤン

レスキューロボット（れすきゅーろぼっと）

レスキューロボットコンテストに応募、出場するロボット。単にロボットと省略することがある。ベースゲートを通過し、実験フィールドで何らかの活動を行うロボット、機器等をすべてレスキューロボットと呼ぶ。

レスキューロボットコンテスト（れすきゅーろぼっとこんてすと）

震災被災地における人命救助を命題としたロボットコンテスト。レスキューロボットコンテスト実行委員会が主催する。開催告知から貸与機器の返却までのすべての活動を通して一回のコンテストと考える。レスコンと省略して呼ぶ場合がある。

レスキューロボットコンテスト参加申込書（れすきゅーろぼっとこんてすとさんかもうしこみしょ）

レスキューロボットコンテストに参加を申し込むための書類。メンバー一覧用紙、チーム紹介用紙、ロボットアイデア用紙からなる。

→ 応募書類

レスキューロボットコンテスト実行委員会（れすきゅーろぼっとこんてすとじっこういいんかい）

レスキューロボットコンテストの主催者。実行委員会と省略して呼ぶ場合がある。実行委員会の長を実行委員長とする。実行委員長の補佐を副実行委員長とする。実行委員と表記した場合、実行委員会の構成員を意味する。

レスキューロボットコンテスト組織委員会（れすきゅーろぼっとこんてすとそしきいいんかい）

レスキューロボットの付属品（れすきゅーろぼっとのふぞくひん）

一回のレスキュー活動において、レスキューロボットに取り付ける部品等一式。レスキュー活動開始時において、ロボットベース内に配置されていなければならない。レスキュー活動開

始時にロボットベースに配置されていない部品は、付属品として認められない。

レスコン（れすこん）

レスキューロボットコンテストの略称。

レスコンアニュアルプライズ（れすこんあにゅあるぷらいず）

表彰の一部門。レスキューロボットコンテストで常設されている賞の総称。レスコンアニュアルプライズとして設けられる賞はレスキュー工学大賞、ベストポイント賞、ベストプレゼンテーション賞、ベストテレオペレーション賞、ベストチームワーク賞、およびベストロボット賞がある。

レスコンメモリアルプライズ（れすこんめもりあるぷらいず）

表彰の一部門。各回のコンテストの状況に応じて設けられる賞の総称。競技会終了後、レスキューロボットコンテスト全体を勘案し、実行委員長が選定する。

レッドフラグ（れっどふらぐ）

反則行為に対する退場。レスキューロボット1機ごとあるいはヘリテレに対して与えられる。

路上ガレキ（ろじょうがれき）

道路上に配置されるガレキ。単体のガレキを意味する場合と集合体のガレキを意味する場合がある。

→ ブロック内ガレキ

ロボットアイデア用紙（ろぼっとあいであようし）

レスキューロボットコンテスト参加申込書の一部。チームの考えるレスキューロボットのアイデアや特徴について記入する。レスキューロボット1機とは、1ページのロボットアイデア用紙の内容を基本とする。ロボット検査はロボットアイデア用紙を基に1機ごとに行われる。

→ メンバー一覧用紙、チーム紹介用紙

ロボット検査（ろぼっとけんさ）

本選において、レスキューロボットが規定などに適合しているか否かを判断するために行う検査。競技に参加するすべてのロボットはロボット検査を受けなければならない。予選におけるロボットチェックに合格したロボットも受ける必要がある。ロボット検査はロボットアイデア用紙を基に1機ごとに行われる。書類審査にて提出された構想と明らかに異なるロボットはロボット検査を受けることができない。

ロボットチェック（ろぼっとちえっく）

予選において、レスキューロボットが規定などに適合しているか否かを判断するために行う

検査。予選競技に参加するすべてのロボットはロボットチェックを受けなければならない。

ロボット調整場（ろぼとちようせいじょう）

予選あるいは本選期間中にラジオコントロール機器を使用してロボットの機能を点検する必要がある場合、ロボット調整場にて点検することができる。ロボット調整場では無線カメラを使用した調整を行うことはできない。ロボット調整場の使用にあたってはあらかじめ各チームの使用時間の指定は行わない。各チームが必要に応じて使用できる。ロボット調整場は一般観客に対して公開される場合がある。

ロボット番号（ろぼとばんごう）

レスキューロボットを識別するために用いられる番号。すべてのレスキューロボットには1機ごとに1から順にロボット番号を割り当てなければならない。

ロボットベース（ろぼとべーす）

レスキューロボットおよび付属品が出動する際に配置される区画（1,200mm×1,200mm）。空間的に指す場合は、区画の表面から鉛直上方空間を言う。一時帰還およびリスタート時も同様にロボットベースから出動することとなる。ロボットベースに配置されているあるいは帰還しているロボットに限り、チームメンバーが触れることができる。

ロボットベースに戻る（ろぼとべーすにもどる）

ロボットの接地面がロボットベース上にあること、かつ、ロボットが完全にベースゲートを通過していることをもってロボットベースに戻ったと言う。

—わ—

特になし。

以 上

なお、本規定の著作権はレスキューロボットコンテスト実行委員会が有する。断りなく転載することを禁止する。